

令和4年7月9日(土)～
8月21日(日)

【田原市博物館 テーマ展】

田原市博物館の浮世絵

展示室

研修室

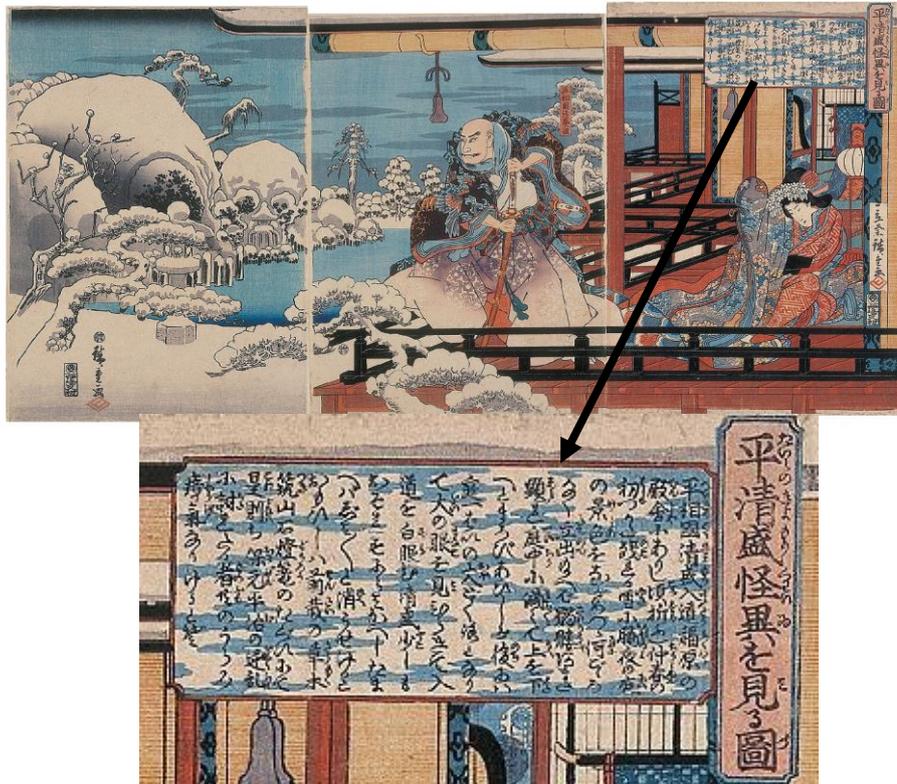
田原市博物館には、数多くの浮世絵が収蔵されています。優品と夏にふさわしい浮世絵を今回展示します。

※浮世絵師の表記について、号は使用せず、一般的に使われている名前で統一した

作者	作品名	制作年	員数	備考
河鍋暁斎 <small>かわなべきょうさい</small>	応需惺々子暁楽画 <small>おうじゆせいせいしきょうらくが</small> 第五号 <small>だいごごう</small> 不動明王開化 <small>ふどうみょうおうかいか</small>	明治7年(1874)	1枚	
東洲齋写楽 <small>とうしゅうさいしやらく</small>	四世岩井半四郎の乳人重の井 <small>よんせい いわい はん しろう ちひと しげ い</small>	寛政6年(1794)	1枚	
三代目豊国 <small>さんだいめとよくに</small>	民谷伊右衛門 <small>たみやいえもん</small> 市川海老蔵 <small>いちかわえびぞう</small> お岩ゆうこん <small>いわ</small> 尾上菊五郎 <small>おのえきくごろう</small>	江戸時代後期	2枚	
三代目豊国	伊賀小太郎朝行と伊賀式部之丞光宗之亡霊 <small>いがこたろうあさゆき いがしきぶのしょうみつむね の ぼうれい</small>	江戸時代後期	1枚	
三代目豊国	妾菊野の亡霊と福田又八の亡霊 <small>めかけきの ぼうれい ふくだまたはち ぼうれい</small>	江戸時代後期	1枚	2枚の内1枚
歌川広重 <small>うたがわ ひろしげ</small>	平清盛怪異を見る図 <small>たいらのきよもりかいい み ず</small>	江戸時代後期	3枚	
三代目豊国	岩井半四郎 <small>いわいはんしろう</small>	江戸時代後期	1枚	
河鍋暁斎	応需暁斎楽画 <small>おうじゆ きょうさいらく が</small> 第八号 <small>だいはちごう</small> 伊蘇普物語之内三巻目 <small>いそづものがたり の うちさんかん もく</small> 録第百十三日蝦蟇ノ壳薬話 <small>ろくだいひやくじゅうさんにち がま ばいやくぼなし どうさんかん め じゅうろく いわ</small> 同三巻目十六二日 <small>どうさんかん め じゅうろく いわ</small> 神仏天井に会合の話 <small>くしんぶつてんじょう かいごう はなし</small>	明治7年(1874)	1枚	
月岡芳年 <small>つきおか よしとし</small>	一之谷鶴越逆落之図 <small>いちのたにひよどりごえきかおとしのず</small>	明治期頃	3枚	
歌川国芳 <small>うたがわくによし</small>	此下藤吉 <small>このしたとうきち</small> 奥方綾の臺 <small>おくかたあや だい</small> 中納言 <small>ちゅうなごん</small> 実は石川五右衛門 <small>じつ いしかわごえもん</small>	江戸後期	2枚	
歌川国芳	稚立武勇揃 <small>おきなだちぶゆうぞろい</small>	江戸後期頃	3枚	
歌川国芳	通俗三国志英雄之壺人 <small>つうぞくさんごくしえいゆうのいちにん</small> 周倉 <small>しゅうそう</small>	江戸後期	1枚	
歌川貞秀 <small>うたがわ さだひで</small>	孝貞女鏡 <small>こうていおんなかがみ</small> かくやひめ	江戸後期頃	1枚	
一川芳員 <small>いつせんよしかず</small>	正寫英吉利人 <small>しょうしやいぎりすじん</small>	明治時代頃	1枚	
豊原国周 <small>とよはらくにちか</small>	山開目黒新富士 <small>やまかいめくろしんふじ</small>	明治26年(1893)	3枚	
河鍋暁斎	生物猛虎之真図 <small>せいぶつもうこのしんず</small>	万延元年(1860)	1枚	
歌川国芳	浮世又平名画奇特 <small>うきよまたべえめいがきとく</small>	嘉永6年(1853)	2枚	
歌川国芳	墨戦之図 <small>すみいくきのず</small>	天保14年(1843)	3枚	

作者	作品名	制作年	員数	備考
歌川広重	両国納涼大花火 <small>りょうごくのうりょうおおはなび</small>	江戸後期	1枚	
歌川広重	東都名所 両国橋花火之図 <small>とうとめいしょ りょうごくばしはなびのず</small>	江戸後期	1枚	
歌川広重	六十余州名所図会 尾張津島天王祭り <small>ろくじゅうよしゅうめいしよずえ おわりつしまてんのうまつ</small>	江戸後期	1枚	
歌川広重	五十三次名所図会 <small>ごじゅうさんつぎめいしよずえ</small>	安政2年(1855)	画帳	白須賀から藤川

「平清盛怪異を見る図」の物語紹介



平清盛怪異を見る図

平相国清盛入道福原の殿舎に在りし頃。折ふし仲春の初めつきた。残れる雪に朧夜の庭の景色を眺めつつ、何漫ろなく、立出給へば髑髏数多現れ、庭中に満々、上を下へと転びあひしが後には庭いっぱいの大髑髏となりて大の眼を見開きて入道を白眼む。清盛少しも恐れず睨みかへしたまへば、「じそじそ」と消えうせけると思ひしは、前栽の草木筑山石燈籠の類にて。是則ち保元平治の逆乱に討たれたる者共の恨み瘴気なりけるとぞ。

【口語訳】
平清盛怪異を見る図

清盛が福原の屋敷に居た頃の初春くらいの時。残っている雪に朧月を眺めようとして庭に出てみたら髑髏が沢山現れた。庭に満ちるほどで、その髑髏は上へ下へと転がって、その後、大きな一つの髑髏になって大きな目を見開いて清盛を睨んだ。清盛は少しも恐れず睨み返したら、「じそじそ」と消えていった。庭はいつもの草木、燈籠がある姿へ戻っていった。保元・平治の乱の時に討たれた者たちの恨みがこのように髑髏となって表れたのだった。

田原市博物館